

活動紹介

千葉県森林インストラクター会

| | | | |
|------|------------------------------|---------------|------|
| 活動分野 | 地域部会（中央・九十九里部会） | | |
| タイトル | 下総台地の成り立ちと植生、人々の暮らしを辿る | | |
| 実施日時 | 平成 30 年 6 月 17 日（日）10 時～15 時 | | |
| 実施場所 | 八千代市新川、神崎川流域 | | |
| 受講者 | 名 | F I C 会員他スタッフ | 10 名 |

活動の内容

雨の日が続くなか 1 日だけの「梅雨の晴れ間」に、この辺の地質や植生に大変詳しい In さんの案内で、八千代市北部、新川とその支流である神崎川に囲まれた地域の集落を巡りました。

国道 16 号線を過ぎた地点の島田集落からスタート、ここはかつて養蚕が盛んだった地域で桑畑から逸出したマグワ（あるいはマグワ系栽培種）が道ばたに生えているのが観察されます。

新川の流れる低地から斜面を登って台地へ、様々な樹木の実生が観察されるエリアやヒノキ／サワラの人工林などを通して、宅地造成地に抜けます。この造成地の道路の法面などで、台地を構成する地層が観察できるのです。上から関東ローム層（立川層、武蔵野層）、東京軽石層、常総粘土層と約 7～8 万年前までの地層が観察できました。昨夜の雨の影響もあって、どの層も同様に「赤土ふう」に見えるのですが、表面を少し削ったり、指先で揉んでみたりすると各層の違いがわかります。更にその下にはこの辺一帯が海（古東京湾---約 8 万年以上前）だった時代に形成された木下層などがあるのですが、ここでははっきり確認することが出来ませんでした。

午後は、再び台地上がり、神崎川の河岸段丘やこの辺に散生するモミ等を観察しながら新川を望む地点（平戸）へ、縄文時代にはこの辺りに拡がっていたであろう古鬼怒湾をイメージし、更に有名な「享保の印旛沼普請」を計画・許可を願い出た平戸の名主、染谷源右衛門の顕彰碑等を見学、最後は新川に沿って平戸からスタート点の島田まで辿り、解散しました。



古鬼怒湾をイメージ（印旛沼方面を望む）

上図：
下総台地の地層
上から、
関東ローム層、
東京軽石層（中央のオレンジ色部分）、
常総粘土層



染谷源右衛門の顕彰碑



新川に沿って歩く